

2022年冬の入賞作品

旭川でみつけた“デザイン絵日記”

令和
平年 1月 4日 場所 各家の直接見出されたが、雪の無い時期が内四ヶ日も見ぬ
みつけたもの（絵、写真、なんでもいいよ。）マンホール

ナカマドは旭川の市立。ギンレンジャー（布の島）やツツジ（布の花）。カントン（布の糸）やデザインマンホールは今度つくらねるのか？

このトンネルは山を走っているのが判る。

本物のマンホールには色々付いていたせんが、他の町村には簡単マンホールがあるのに、予想され続けていました。

旭川ローマ字バージョン。ナカマドバージョンは平仮名。

どこがデザイン？
ナカマドバージョン
ナカマドの大文字の並び方がマンホールの内に沿って並べられてるところ。色がつけてあってもナカマドだとわかる確かな正確さ。
バーソロッパルバージョン
「スキーポート」といふのが分からなかった。左下北光道の真ん中
に星があること、旭川が北光道の真ん中にあることを示す
星の上に見えられるヒコ
旭川バージョン
…カントリーラインのヨコ一周線と大雪山が一枚川に収まっている
金で★旭川のマークが必ずどこかにあるところ

選んだ理由
他の市町村を観光している時に、他の市町村の有名な物や特産物を描いているマンホールを見つけて興味を持ったから。また、時々カウチのマンホールもあり、デザインが豊富が好きで見ていたから。そして、マンホールカードやズボンタグが、今はマンホールのデザインを楽しめる仕組みが実装していて自分もマンホール楽しいとは思ったから。自分の好きな、カントリーラインとリンクしている物や時々アリ（例）は私が探してたのである。興味深く感じたから。色がついてないはいわゆるもの、細かい線で凹凸のみで作られていて何を表しているのかが一目で分かるよくなっているデザインに興味を持ったから。普段意識していないマンホールだが、このように上げてみると、とても楽しいデザインがが色々あることに気が付いたから。ナカマドのデザインがあることを知っていたが、他にもデザインがあるのか気付いたから。

旭川でみつけた“デザイン絵日記”

令和3年12月27日 場所 北海道旭川市東旭川町倉沼

みつけたもの(絵、写真、なんでもいいよ。)

どこが“デザイン”
JRの看板をモチーフにして描かれていました。

字体がユーモアで、小さなお子供がわくわくするようデザインになっている。
設置されている場所が通行人がよく通る分かりやすい所になっている。

選んだ理由
・調べてみるとこの「旭山動物園号」の車両のデザインを担当した人が糸会本作家でよく使われているあべ弘士さんだったことに驚いたから。
・この駅を通過する列車である「旭山動物園号」が車両の老朽化の為に2018年3月末で引退したにもかからず、3年半すぎもの時が経った今でも残りを売っていることに違和感を感じたから。
・この看板の「旭山」が赤色のは誕生や人園、「島が青色のは死後や出園を意味していて、人生があれば必ず死がある」ということを伝えていることを知ってとても感心したから。

旭川でみつけた“デザイン絵日記”

名前 隈本香凜 小学4年

令和4年1月12日 場所 銀座通り商店街

みつけたもの(絵、写真、なんでもいいよ。)

どこがデザイン?
「ふうのとりいとちが」て、真ん中がないのかおもしろいデザイン。

選んだ理由
「じ」と見たとき、まん中がないので、とても目をひくデザインで、なんとか気がなった。じむ所の人をいてみると、しょう法の決まりで、ちょうど車が通れるようにしなければいけなかたそうです。でもそのおかげで、とってもめずらしいデザインになりました。

**学年賞
小学5年**

旭川でみつけた“デザイン絵日記”

名前 かほ

令和4年1月12日	場所 糸張の森 動物病院完!!
-----------	-----------------

みつけたもの(絵、写真、なんでもいいよ。)

まきストーブ グッドル G⁴⁴

外観も中も、全部木!!

選んだ理由

めずらしいというか、スゴい建物だなあと思ったから。

自然のもの(木など)を使って、糸張の森って感じがしていい

どこがデザイン?
ほとんどが木でできてるコト!!

工夫いいばい!!
⑥ 例えば... ～
まきストーブ 土っぽい地面

かほ

学年 賞
中学1年

旭川でみつけた“デザイン絵日記”

名前 野原 晴流

令和 4年 1月3日

場所 旭川駅

みつけたもの（絵、写真、なんでもいいよ。）

どこがデザイン?

北海道産のタモ材に名前を冠するアロ江戸で染めしたや民の考前が貼り付けていて、自分で染めている。また鼻で香りを楽しみ、心地も楽しむ事が出来ると工夫の成果がデザインされて思おどかです。

選んだ理由

旭川の街の玄関口の旭川駅に隣り立つと旭川が家具の街である事を印象付けるがの様に壁、天井、手すりすべて北海道産のタモ材が使われていて、その他にも木で作られたオシャレなデザインのイスも展示されていました。初めて来た人を旭川はどんな所なんだろか?とわくわくさせてくれるデザインたちのデザインでした。

旭川でみつけた“デザイン絵日記”

令和 4年 1月 10日 場所 梶田 伸希

みつけたもの(絵、写真、なんでもいいよ。)

旭川市のシンボルが
柄がある。

CITY ASAHICAWAと
書かれてるところ
がある。

外周のが油垢。

↑
山の上を滑り
て飛ぶ感じの山
圓柱体でさう。
スキーひら
ことかくにかかる
レ
雪が降る。

本庄正樹さんが
いわれぬ地獄
(雪の中滑り出る)

↑
山の上を滑り
て飛ぶ感じの山
圓柱体でさう。
スキーひら
ことかくにかかる
レ
雪が降る。

どこがデザイン?
歩道にあるマンホールの中の絵。
スキーオリジナルでいい点を...
選んだ理由
全國に数々のマンホールがあるが
このホルは、この大きさでパッと見ただけでも興味ある
要素があるから「旭川のデザイン」は
これだ!と思った。

むしろ、このデザインは旭川市のいなり山
でうにおり観光客のついで見てもらえて
できる点がいい。身近にデザインがあることを
感じさせていたから。

応募された皆様へ “旭川でみつけたデザイン絵日記”の応募作品の中から、競い合うかたちで賞を対象とした審査をするのは、誠に本意ではございませんが、感謝と敬意の意を込めて、生活の中でデザインの大しさを知るきっかけになるために、
探求(着眼点と捉え方)、恒常(日常的な考え方)、共感(分析力と在り方)の3点について、厳正なる評価をさせていただきました。応募いただきまして、誠にありがとうございました。旭川デザイン協議会 デザインってオモシロイ!事業部一同